

小路というたが、中橋の方の小路は古名原町であつたのである。明治十六年頃一つの井戸を埋め、今は一つのみ残つてゐる。金澤の方首に井戸のことを池といふからこの名があるのである。

イケノタイガ 池野大雅 京の藩人。寛延三年と寶曆十年との二次に北遊した。その第二次は高芙蓉・韓大年と相携へて、富士山・白山及び立山に登るを目的とする旅次で在つた。後に大雅の三岳道者と號したのは、是に因るのである。

イケノハタゴゼン 池端御前 加賀藩主第十二代前田齊廣の女勇姫は、大聖寺侯前田利極に嫁して、池端御前と呼ばれた。

イケノヤマ 池ノ山 正保繪圖に石川郡河内庄奥池村と山嶺に池山村の名が載せられる。この山に銀を出した頃、百四五十軒の銀山町が起つたとあるから、それを池山村とも言つたと見える。

イケハラ 池原 イケジ 鳳至郡小間生のうちの小字。

イケモリシヨウダユウ 池守庄太夫 定番御歩で百石を領し、天明五年町同心に轉じ、寛政元年町同心を除かれて組外並となつた。子孫藩に世襲した。

イケンシコウ 轟軒詩稿 一册。藤井世均著。編中律詩・絶句五十餘首及び信州澁温泉紀行の長文一編を収めてある。大正八年著者の三周忌に當つて、舊友吉村菊溪が同好に頒つたもの。

イコウイン 靈香院 加賀藩主第十三代前田齊泰の子、大聖寺侯前田利行の法號。詳しくは靈香院梅苑釋相大居士。

イコクヤヤエモン 異國屋彌右衛門 金澤魚屋町の中程南側に住み、代々絹布の洗張を業とした。家傳に、先祖以來この地に居住し、金澤での異國張の鼻祖であるから、屋號をもかく稱したといふ。

イコマオリノスケ 生駒織之助 初名駒之丞。萬兵衛重信の子に八郎右衛門元重(一諱重輝)があり、織之助は元重の子であつた。享保十八年幼にして父の遺知千石の三の一を襲ぎ、元文二年早世して家斷絶した。

イコマゴンベエ 生駒權兵衛 前田利家に仕へて俸五百石を受け、子孫世々藩に仕へた。イコマシゲノブ 生駒重信 傳吉又は萬兵衛と稱し、生駒内膳直勝の孫で、八郎右衛門の長男である。承應三年金澤に生まる。寛文六年父の歿後家を繼ぎ、遺領の内三百石を賜はつた。時に十三歳。同十一年奥小姓組となり、延寶元年舊知千石となる。同七年馬廻組に列し、元祿十六年普請奉行に任せられ、寶永二年五月先簡頭に登り、享保四年四月廿七日六十六歳にて歿した。その墳墓は三橋高嚴寺にある。重信俳諧を好んで萬子又は鶴葉・白駒居士・疎居士と號し、その家を水國亭、又は水國館、茶廬を此君庵といふた。初め植林を學んだが、後芭蕉に師事して大に同好を支援し、その花の編著があり、その手記金蘭集は後年蘭更によつて出版せられてゐる。重信の後、子八郎右衛門を經、織之助に至り早世して家斷絶した。

イコマナホカタ 生駒直方 直義の嫡男。小字市正、後内膳。父の歿後世祿四千五百石を受け、火消役となり、元祿七年(一作五年恐非)二月七日歿した。直方の室は、初め前田利常の側室であつた五條局で、慶安七年命によつて婚したものである。

イコマナホカツ 生駒直勝 小字牛助、勤右衛門・萬兵衛 監物・内膳と稱した。京師の人。吉田又左衛門直元の子。元龜元年七歳の時織田信長の近侍となり、氏を生駒と改め、天正四年十三歳の時石山本願寺討伐に従軍して、感狀及び佩刀を賜はつた。後豐臣秀次に仕へ、采邑千石を伊勢に受け、次いで千石を加へ、從五位下内膳正に叙任した。秀次歿後は織田信雄に仕へて四千百有餘石を受け、慶長五年致仕、翌年加藤嘉明に仕へて四千石を受け、八年前田利長の招に應じて來り仕へ、五千石を賜はり、高岡に從ひ、後又利常に隸し、次いで江戸に行き、芳春院夫人に侍した。十九年五月十三日その地に歿、年五十一。子孫世々藩に仕へた。

イコマナホカド 生駒直藤 通稱牛助。字は清夫、楓山と號した。内膳直武の子。少くして歿した。遺稿に楓山遺文があつた。

イコマナホタケ 生駒直武 直政の子。内記・監物・右近・内膳と稱し、字は君烈、柳亭と號し、居所を萬松樓と言ふた。享保十六年世祿三千石を襲ぎ、延享二年公事場奉行となり、五年寺社奉行に遷り、寶曆三年罷め、翌年再び公事場奉行となり、十二年九月十五日歿した。年六十八。直武學を好んで伊藤華野に從遊し、著書に觀文書堂四書辨疑二十五卷、柳亭集若干卷があつた。

イコマナホハル 生駒直温 通稱三郎・隱九郎。萬兵衛重信の次子大貳信行の子。俸四百五十石を受け、馬廻組に班したが、明和元年二月廿三日不行狀により三十二歳を以て知行を召放された。

イコマナホマサ 生駒直政 通稱牛助、後右近と稱した。直方の二男。前田綱紀に仕へて奥小將となり、新たに千石を賜はり、父の歿後世祿三千石を受け、人持組に列した。享保中小松城番・寺社奉行・公事場奉行に累任し、同十六年歿した、齡七十七。

イコマナホヨシ 生駒直義 直勝の嫡男。通稱初め監物、後内膳。父の後を襲いで四千五百石を受け、前田利常に從うて大坂兩役に出席し、後利常の子利次の傳となり、寛永十五年歿した。その室は織田常眞の女であつた。

イコマハチロエモン 生駒八郎右衛門 直勝の二男。幼名兵衛。慶長十一年前田利長に仕へて三百石を賜はり、後千石となつた。初め利常の子小將となり、次いで中小將番頭に進んだが、京師の花街に遊び、嫖客と争闘して二人を殺した爲、祿を返して籍を除かれた。後寛文二年歸仕して舊祿に復し、翌年簡頭となり、六年に歿した。

イサキヒコベエ 伊崎彦兵衛 初めて前田利常に仕へて五百石を領し、子孫世々藩に仕へた。

イサメバコ 諫籍 イメヤスバコ 目安箱。イシウラ 石浦 石川郡石浦庄に屬する部落。明和二年金澤慈光院の書上に、石浦村は上下に別れ、今の石浦町に下石浦村、百姓町に上石浦村があり、上下併せて一村であつたとある。後世百姓町の中に、石浦村に貫する百姓三四戸を残してゐたが、明治に至つて金澤の町民に編入せられた。

イシウラウチ 石浦氏 尊卑分脈に、林六郎光明弟大桑三郎利光の二男石浦三郎光綱、

行を召放された。

イコマナホマサ 生駒直政 通稱牛助、後右近と稱した。直方の二男。前田綱紀に仕へて奥小將となり、新たに千石を賜はり、父の歿後世祿三千石を受け、人持組に列した。享保中小松城番・寺社奉行・公事場奉行に累任し、同十六年歿した、齡七十七。

イコマナホヨシ 生駒直義 直勝の嫡男。通稱初め監物、後内膳。父の後を襲いで四千五百石を受け、前田利常に從うて大坂兩役に出席し、後利常の子利次の傳となり、寛永十五年歿した。その室は織田常眞の女であつた。

イコマハチロエモン 生駒八郎右衛門 直勝の二男。幼名兵衛。慶長十一年前田利長に仕へて三百石を賜はり、後千石となつた。初め利常の子小將となり、次いで中小將番頭に進んだが、京師の花街に遊び、嫖客と争闘して二人を殺した爲、祿を返して籍を除かれた。後寛文二年歸仕して舊祿に復し、翌年簡頭となり、六年に歿した。

イサキヒコベエ 伊崎彦兵衛 初めて前田利常に仕へて五百石を領し、子孫世々藩に仕へた。

イサメバコ 諫籍 イメヤスバコ 目安箱。イシウラ 石浦 石川郡石浦庄に屬する部落。明和二年金澤慈光院の書上に、石浦村は上下に別れ、今の石浦町に下石浦村、百姓町に上石浦村があり、上下併せて一村であつたとある。後世百姓町の中に、石浦村に貫する百姓三四戸を残してゐたが、明治に至つて金澤の町民に編入せられた。

イシウラウチ 石浦氏 尊卑分脈に、林六郎光明弟大桑三郎利光の二男石浦三郎光綱、

郎光明弟大桑三郎利光の二男石浦三郎光綱、